

## 獅子吼でのカタクリの生育状況

- 後高山奥獅子吼稜線上におけるカタクリの開花株を数える -

柳生敦志

Key word : カタクリ 春植物 獅子吼 自然観察会

### はじめに

構成的グループエンカウンターのアクティビティで、春夏秋冬の四季のうちいつが好きですかという問を発すると、一番人気があるのが春である。人気の訳の一つは花盛りとなる春植物の存在であろう。

春植物とは、雪が解けると直ぐに芽を出し、葉をつけて花をつけ実をつけて、背の高い樹木が葉を出して、頭の上の空間を覆ってしまう前に地上部が枯死してしまう植物のことである。

さて、石川県内で行われている「いしかわ自然学校」傘下の自然観察会で、最も参加者数の多いのは獅子吼の観察会（常に100名を超える）である。例年、天候に関係なく大盛況であり一番人気である。その理由の一つは、この早春のスプリング・エフェメラル（春植物）を味わいたいということかもしれない。獅子吼の稜線は、春夏秋冬いつ行っても、それなりの魅力があるが、大多数の人にとっては、お目当ては、やはり、カタクリの開花であろう。万葉の昔から歌に詠まれ愛され親しまれた花である。

本田（1995）によると、「石川県におけるカタクリの北限は、倉ヶ岳と、浅野川と犀川の中間の河内谷一帯を結んだ線上であり、浅野川以北には分布しない」とある。とすれば、獅子吼のカタクリも北限の直ぐ側である。一斉に数千株の開花が観られる獅子吼の稜線の5km北では、もはや1株のカタクリも観ることができないのだ。

しかし、牧野の図鑑には、「日本各地、およびサハリンの温帯から暖帯に分布」とあるので、逆に、なぜ能登にはカタクリがないのかという方が興味深いのではなからうか。

さて、2002年3月、自然解説員研究会で、「獅子吼におけるカタクリの花の見頃は何時なのか。」というささやかな議論があった。そして、「今年は異常気象で高温が続き、種々の開花が早まっているので、例年4月の最後の日曜日に行われている観察会を1週間早めてはどうか。」という意見があった。最初、なるほどと思った。しかし、積雪量はどうかであったのかという疑問があった。そこで、「白山麓のスキ-場の積雪状況から見て、雪は少ないわけではないので、たとえ開花が多少早まったとしても、獅子吼の稜線のどこかで、カタクリの開花が観ることができるのではなからうか。」という主旨の発言をしたつもりである。そうはいったものの、実際のカタクリの開花状況はどうか、デ-タ-をとっておく必要を感じたので、簡単な調査を行うことにした。

### 材料と方法

例によって、北陵高校地球探検同好会の2年次生、澤田慧君を誘って、2人で獅子吼へ出かけるこ

とにした。

獅子吼ゴンドラ頂上駅からスキ - 場横遊歩道を下りきり、登山道に入る地点から、開花しているカタクリの株数を度数計（数取器）でカウントした。ただし、登山道から藪の中へ入ることは許されないので、登山道から左右両側 1 m以内とした。また、開花終盤萎んでいるものはカウントしなかった。完全に開花しているか萎んでいるかは、調査者の主観によるので、カウントには数%の誤差がある可能性がある。

調査範囲は、獅子吼スキ - 場下の登山道入り口から月惜峠を通過、広場のある 2 つ目の鉄塔（大概昼食場所になる）までとした。この範囲にしたのは、観察会において概ね参加者全員が通るからである。さらに、この調査範囲を、分かりやすい目印を基準にさらに 5 つの区間に分けた。

後高山（登山道入り口）～月惜峠

月惜峠避難小屋前

月惜峠～杉林（水飲み場）

杉林～1 つ目の鉄塔

1 つ目の鉄塔～2 つ目の鉄塔（広場）

調査回数は 3 回、約 1 週間（8 日）おきに行った。

1 回目：2002 年 4 月 20 日（土）

2 回目：2002 年 4 月 28 日（日）観察会当日

3 回目：2002 年 5 月 6 日（月）

ただし、1 回目の調査は杉林までである。

## 結果

	2002 年 4 月 20 日 (土)	2002 年 4 月 28 日 (日)	2002 年 5 月 6 日 (月)
	開花している株数	開花している株数	開花している株数
後高山～月惜峠	712	4	0
月惜峠	42	0	0
月惜峠～杉林	706	2	0
杉林～1 つ目の鉄塔	-	3504	30
1 つ目～2 つ目の鉄塔	-	2362	117

表 1 . 数値は開花している株数（花数）を表す。ただし、萎んでいたものは

カウントしていない。1 回目の調査は杉林までである。

表 1 にあるように、4 月 20 日は、月惜峠まで、切れ目無くカタクリが咲いていたが、4 月 28 日観察会当日は、ほとんど散った後であった。観察会当日は杉林から 2 つ目の鉄塔までが満開だった。

5 月に入ると、開花のピ - クは奥獅子吼山頂近くへ移っていった。

図1. 4月20日の観察。折れ線は道のりと標高。棒は株数を表す。

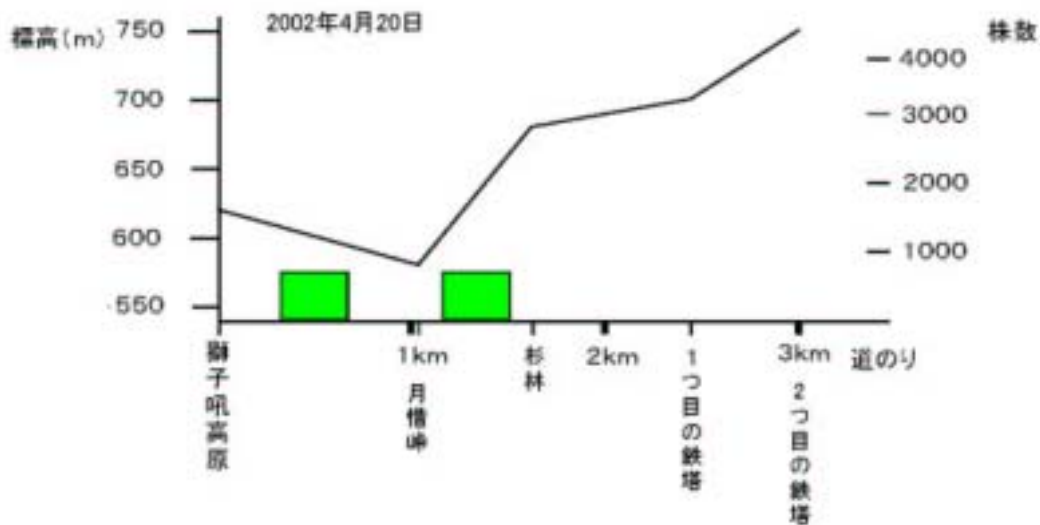


図2. 4月28日の観察。折れ線は道のりと標高。棒は株数を表す。

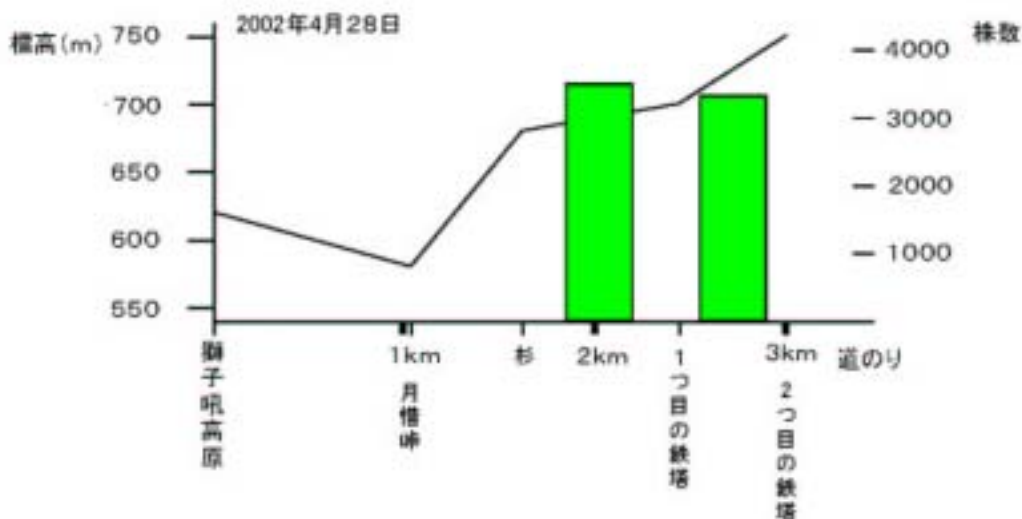


図1と図2から、開花期のピークで最も多くのカタクリの開花を観ることができるのは、この稜線では標高600m～700mの間のようなのである。

### 考察

観察ルートを月惜峠までとするならば、観察会の日程を1週間前、4月中旬にずらした方がよいかもしれない。しかし、観察ルートを奥獅子吼山頂までとするならば、4月下旬の方が、カタクリの色々な姿を見られる可能性があるのではなかろうか。すなわち、月惜峠までは、結実、2つ目の鉄塔（昼食地点）までは、開花、奥獅子吼山頂までは、咲き始めそして雪解け直後の風情。と3通りの風景が楽しめる可能性がある。演出効果からしても、月惜峠までは、実ばかりなのに、月惜峠を過ぎると突然カタクリの大群落が出現するというのは、ドラマチックなのではなかろうか。

5月に入ると、開花はめっきり減ってしまうので、カタクリの花の観察には適していないと思われる。

年によって、気温の推移、雪解けの状況が違うので、できれば毎年連続した観察ができると面白いかもしれない。カタクリの開花は気温の影響を受けており、17 から20 を過ぎる頃、かがり火のような美しい満開の姿になるという。今回気温の測定をしなかったが、次回機会があったら、気温の測定もやってみたい。また、開花に適した気温は、花粉媒介者のチョウやハチの活動する気温と一致しているので、獅子吼におけるこの時期の昆虫の活動を観察するのも面白いかもしれない。

### 参考文献

- 1) 高木政喜(1996) . 早春に咲くカタクリとその周辺を歩く . 石川植物の会会報第26号 . P29 ~ p32 .
- 2) 本田雅人(1995) . 金沢野生植物分布図(第1集) p25 . 宮下印刷 .
- 3) 河野昭一(1988) . Newton special issue 植物の世界(第1号) p60 ~ p91 . 教育社 .
- 4) 牧野富太郎(1982) . 原色牧野植物大図鑑 p745 . 北隆館 .
- 5) 小牧旌(1987) . 加賀能登の植物図譜 p78 . 加賀能登の植物図譜刊行会 .
- 6) 長田武正(1984) . 検索入門野草図鑑 ゆりの巻 p129 . 保育社 .
- 7) 石川県自然史協会(1997) . いしかわ人は自然人 . 4月春季号 p9 ~ p12 . 橋本確文堂 .

### 付録 白花のカタクリについて

毎年、獅子吼の観察会で数株の白花のカタクリを見つける。シロバナカタクリはどれくらいの頻度で観ることができるのか。1万株に1本ぐらい、と新聞に載っていたことがある。

2002年4月20日では、1454株数えて、白花は3株であった。4月28日は5872株数えて3株であった。数千株に1株は観ることができそうであるが、これだけのデータからだけではもとより結論は出ない。また、白花は1株ずつ散在しているのではなく、一カ所にかたまって開花していた。

写真1 . 白花のカタクリ

(2002年4月20日観察)



写真2 . カタクリ

(2002年5月6日観察)

